

「楽しき仲間たち」

令和3年2月25日

水中ウォーキング 大西紀夫

水中ウォーキングの仲間から、手記を書くのを辞めたのですか・・・という質問を貰った。水中ウォーキングが終わったあとの、お茶の時間の時であった。あ！私の手記でも前向きに読んでくれる人がいるのだ、と知り、ざわざわと心が揺れた。そうだ！一旦書き始めたら続けなければと！！構えると文章は書けなくなる。自然と頭に浮かぶ情景と考え方をスナリと文章に書くことが出来れば、それでいいのではないか。80歳になった今、文章が書きたくてしょうがない。読んでくれる人が1人でもいれば、こんなに幸せなことは無い。

さて、2月24日の水中ウォーキングが終わって自転車で帰路の途中、平川地区の九田川の川土手に菜の花が満開であった。自転車を止めてウットリと眺めていると、首の長い白い鷺が一羽、菜の花の中に佇んでいた。白い鷺と黄色の菜の花のコントラストが実に美しく綺麗であった。川の中には2メートル近い葦が自生しており、流れる川も、実に穏やかで空の青さも映し出され、それはそれは一時の楽しき光景であった。1週間前には、山々が雪で銀白に染まっていたのに、今週は春の最中のようにあり、確実に季節は春に向かって息吹き始めていることを感じた。暫く見ていると、何か危険を感じたのか、鷺は羽を大きく羽ばたかせて飛び去っていった。私も暖かい気分で帰路についた。

ところで、私の人生訓としている好きな格言に、「後漢書・班超伝」からきている「虎穴に入らずんば虎子を得ず」がある。皆さんご存知だと思うが、「あえて危険を冒さなければ、望むものは手に入れることは出来ない」という意味だ。ある彫師に頼んで竹に彫り込んでもらい、いつも持っていた。それが良かったか、管理職になったときに、迷ったときの決断に、この人生訓が役に立ったと思っている。かなりヤバイと思っても、～いや、やろう～という決断ができたのも、心の底にこの考えがあったからではないかと、今でも思っている。ただ無茶をするのではなく、十分に熟慮したあとの決断ではあったのだが。

昨年の今頃、新型コロナウイルスが迫って来た時、中村社長さんがNAP運営のGOサインを出された時の心境は、将にこれと同じ、危険と隣り合わせの決断があったのではなかろうかと思われてならない。私は3月で水中ウォーキングを始めて丁度1年になるが、その決断のお陰で楽しく運動をさせてもらっている。仲間の皆さんとも楽しく会話が出来ている。スタッフにも感謝。殊に松本インストラクターは心使いが行き届いていいね～。